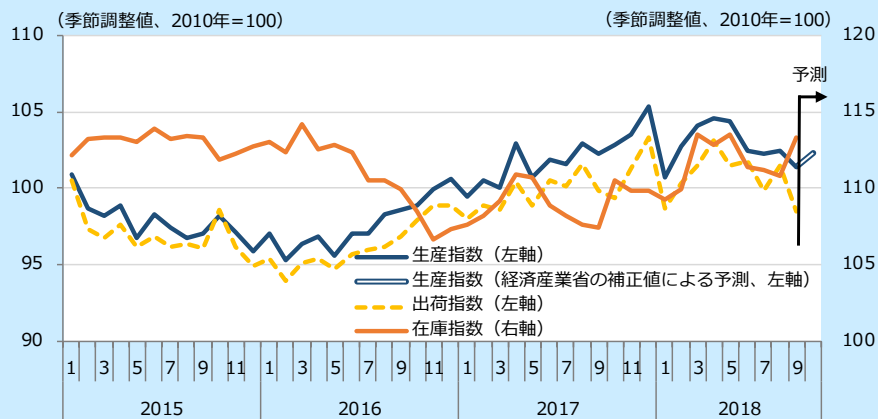


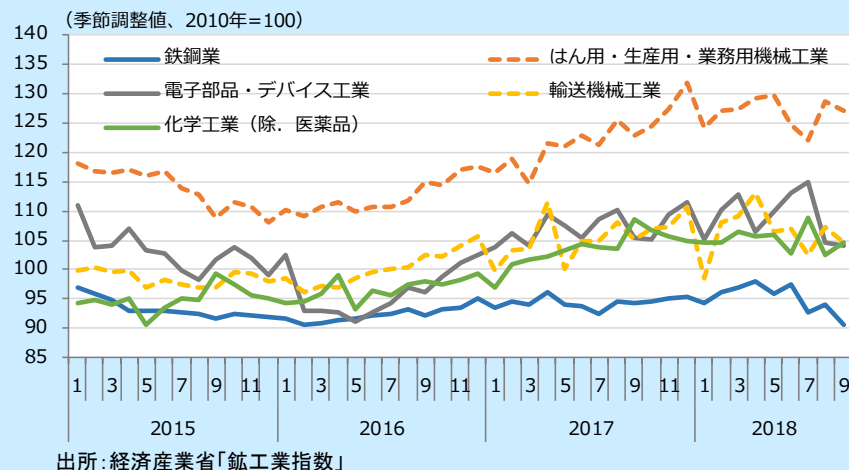
日本：鉱工業生産指数（2018年9月） 一輸出の減少を背景に、生産は低下

MRI Daily Economic Points
November 1, 2018

鉱工業生産 / 在庫指数



変動への寄与が大きい業種の生産指数



評価ポイント

今回の結果

- 9月の鉱工業生産指数(速報)は季調済前月比▲1.1%と2ヶ月ぶりに低下。7-9月期でみても、前期比▲1.7%と、2四半期ぶりにマイナスとなった。
- 業種別にみると、15業種のうち11業種が前月比で低下した。輸出の減少などを背景に輸送機械工業(前月比+▲2.5%)が大きく低下したほか、電子部品・デバイス工業(同▲0.6%)も、前月の大幅な低下に続いて2ヶ月連続で低下した。6月以降の関税引き上げの影響を受けて米国向け輸出が減少している鉄鋼業(同▲3.6%)も、低下傾向が続いた。
- 一方、化学工業(除く医薬品)(同+2.0%)など、4業種が上昇した。
- 在庫指数は前月比+2.3%と4ヶ月ぶりに上昇した。自然災害による物流の停滞などが、在庫の増加につながった可能性がある(出荷指数は同▲3.0%の低下)。業種別では、電子部品・デバイス工業や化学工業(除く医薬品)において、在庫指数や在庫率指数が高めの水準にあり、今後、在庫調整が生産を抑制することも考えられる。
- 製造工業生産予測調査によると、10月の生産は前月比+6.0%の上昇が見込まれている。しかし、予測値が実績値に比べて高めの値となる傾向を経済産業省が補正した値によれば、同+0.9%程度の上昇にとどまる。

基調判断と今後の流れ

- 生産は、2018年以降の輸出の伸び減速などを背景に、回復に一服感がみられる。先行きは、国内では所得環境の改善による内需回復が見込まれるものの、外需はやや減速傾向にあることから、緩やかな回復にとどまるだろう。
- また、①米国の保護主義化に端を発する世界貿易・経済の下振れ、②早ければ2019年1月にも開始される見通しの日米物品貿易協定(TAG)の交渉の行方、など外需を起点とする生産のさらなる下振れリスクには注視する必要がある。